

碓氷峠・熊野神社の武術奉納額について

数 馬 広 二

A Study for Offering the Picture Frame by Martial Arts Schools to Kumano Shrine at Usui Pass.

KAZUMA Kouji

1. はじめに

江戸時代，神社に数多くの額が奉納された。その種類は，神社講元（信者）による額が多く，和算，和歌の奉納額などもある。また武術流派による奉納額もあり，「剣の上達を祈願したり，試合に勝った際の記念，あるいは自流の強さを誇示して武道額を奉納する風が流行った」¹⁾ などが奉納の動機に挙げられている。

本稿では，とくに^{こうずけ}上野国に広がった剣術流派の1つ馬庭念流が額を奉納したと記録される（樋口家文書），^{しの}信濃国・^{くまの じんじゃ}上野国国境の熊野神社・^{くまの こうたいじんじゃ}熊野皇大神社のうち，上野国側の熊野神社に所蔵する額を調査し，武術流派による奉納額数点を確認した。



熊野神社（右・群馬県側）
熊野皇大神社（左・長野県側）



本 殿
（那智宮・本宮・新宮）

碓氷峠にある熊野神社・熊野皇大神社は、群馬県松井田町と長野県軽井沢町の境界の標高1,190 mに位置し、夏は避暑地軽井沢での景勝地として賑わうところで、冬の天候は「薄日」ともいわれ²⁾、低温で積雪もある。明治以降は「熊野皇大神社」、戦後「熊野神社」(群馬県側)、「熊野皇大神社」(長野県側)といわれるが、かつては「碓氷権現」「熊野権現」と呼ばれ中山道の要衝であった。社伝によると、景行天皇40年(紀元110年)10月皇子日本武尊が東夷征伐し、武蔵国、上野国から碓氷峠を経るときに、紀州熊野山の榊の葉を銜えた一羽の八咫の鳥によって案内されたことに、熊野神霊の御加護を感じ、熊野三社を奉祠したことを起源とする。本殿が新宮(速玉男命・上州分に鎮座)、本宮(伊邪那美命・日本武尊・上州信州両国国境に鎮座)、那智宮(事解男命・信州分に鎮座)の三社ある。

2. 先行調査と今調査の目的

碓氷峠熊野神社奉納額の調査は、群馬県立博物館が昭和47年「群馬の絵馬展」開催前に³⁾、また昭和58年、群馬県立歴史博物館が第14回企画展「絵馬—そのすがたと信仰」開催時に、それぞれ行っている。更には松井田町教育委員会文化財係文化財調査委員・佐藤義一氏らによる2回の調査(2回目は平成7年12月6日)がある。佐藤氏の調査では、65点の奉納額について、奉納時期を5期に分けて「元文年間に始まり、宝暦年間に奉納された額の数が増えた」としている。また熊野神社奉納額の地域について「上州碓氷郡が一番多く、中でも安中や安中藩を中心とする地域が主流を占めている。」としている。以上の先行調査リストおよび『安中市史』⁴⁾が、今研究の基礎資料となった。

さて、これまでの調査では、弘化4年(1847)に行われた馬庭念流の奉納額が明らかにされていなかった。そこで今回、熊野神社に所蔵される額の全面的な調査を目的として、宮司曾根恒季宮司のご協力を得て、2回(平成15年7月30日・31日の下見調査、および9月26・27・28日の本調査)にわたり、計5日間の調査を行った。

また調査にあたって、堂宮大工の大森健司氏、工学院大学学生5名の協力を得て熊野神社のすべての額について、材質・寸法などの調査を行った。木材質の見極めは大森氏が、運搬及び計量は本学学生の協力を得た。また写真撮影後の映像をCD-ROM化した。なお本研究は、平成15年度文部科学省科学研究費補助金対象研究(基盤研究C「近世上野国における馬庭念流および武術諸流派の伝播に関する基礎的研究」)の一環として行った。

3. 作業工程

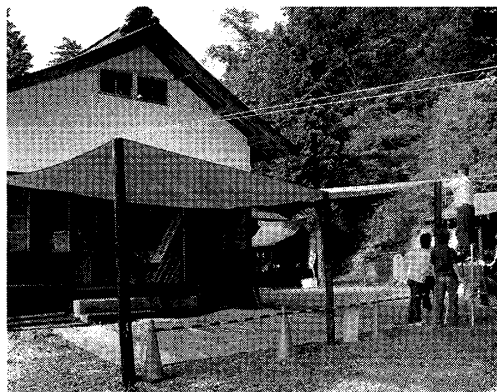
1) 額の養生について

- ① 段ボール箱を地面に敷き詰め、保護シート(5 m×5 m)を一枚敷くことで額の損傷を防ぐ。

- ② 額についた埃などをブローで除去する。またははたきをかけ、刷毛で埃をとる。
- ③ 調査後は空気の入った養生シート（プチプチ）で額を包装し、倉庫に安置する。

2) 雨への備え

- ① 山の天気は急変する。柱を立て、ビニールシート（5 m × 5 m）をかけることで、雨よけとした。



雨への備え



ブロー



包装

- 3) 旧倉庫に収蔵されていた額を搬出、計測、撮影し、最後に新倉庫への搬入を行った。
- 4) 隨身門、堂内に掛けられている額は計測、撮影のみ行った。
- 5) 撮影はカメラ2台で行った。（額1枚につき、全体写真1枚 部分カット数枚）
- 6) 計測は（タテ 横 厚さ）、材質についても見極めた。

4. 額調査の結果

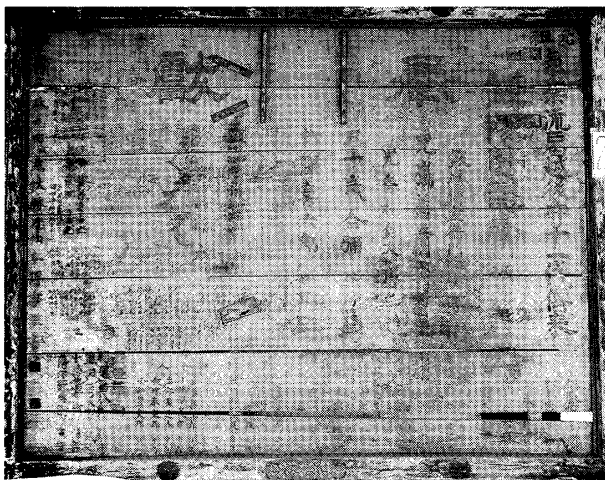
別表1につき、額の所在場所、年代（西暦）、タテ、横、厚さ（mm）枠の中の材質、枠の材質について調査した。

- 1) 所蔵場所：神社内「旧倉庫」70点、「隨身門」9点、「神楽殿」14点、「正面」1点、「曾根恒季宮司宅」1点の合計95点であった。
- 2) 奉納年代：享保10年（1725）以降、昭和8年（1933）まで210年間の額が確認された。中山道が整備された万治2年（1659）以降、参詣者が増えたと考えられ、額が多くの参詣者の目に触れたであろう。
- 3) 額の種類（目的）：^{だいたい かぐら}太々神楽額64（67.4%）、武芸額8（8.4%）、算額2（2.1%）、俳句3（3.2%）、その他（18.9%）であった。
- 4) 額のサイズ（面積㎡）：最大は6.62㎡。最小は0.187㎡。平均1.37㎡であった。武術奉納額は姓名を記してあり平均より大型である。
- 5) 木材質：地板（中材質）について判別した85枚についてみるとケヤキ43（50.6%）、桐15（17.6%）、檜15（17.6%）、松3（3.5%）、杉9（10.6%）などを使用している。

5. 武術流派奉納額について

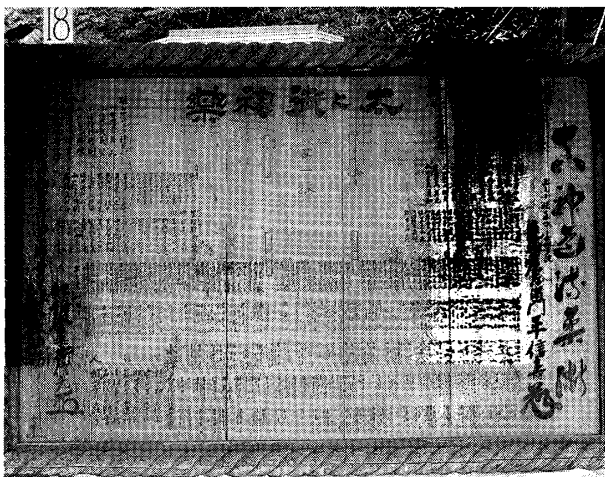
武術流派から奉納された額と流派について年代順にみてみよう。

- 1) 気楽流^{きらく}「戸田越後守十一代伝来」の飯塚臥龍齋^{いづか がりゅうさい}源兼義^{みどの} (1780～1840)⁵⁾ が、文政9年(1826)に奉納した額。飯塚臥龍齋は緑埜郡下大塚村(群馬県藤岡市下大塚)出身。幼少の頃、江戸・浅草馬道に道場を開いていた叔父・絹川久左衛門信興に従って気楽流を学んだ。気楽流は捕手のほか、棒、鎖鎌、長刀、鉄扇、小太刀などがある。この額には高弟の児島や五十嵐金弥(のち伊勢崎藩剣術師範)の姓名が掲載されるが文字の風化が進んでいる。(別表番号50)



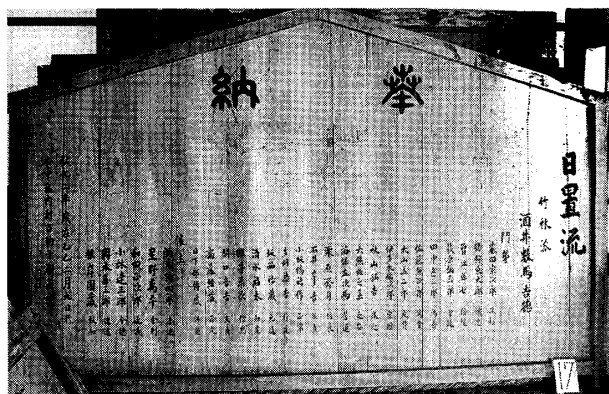
献 奉	元祖 気楽流 戸田越後守十一代伝来
文政九丙戌年秋	飯塚臥龍齋源兼義 (花押)
	飯塚傳左衛門 (花押)
	児島善兵衛 (花押)
	児島右金次 (花押)
	五十嵐金弥 (花押)
	柳澤喜六郎 (花押)

- 2) 真神道流^{しんしんとりゅうじゅうじゅつ}柔術^{じゅうじゅつ}の額(別表53)。天保二年(1831)4月、小幡藩士^{おばた}・片山庄左衛門による。真神道流柔術⁶⁾は浪花の人、山本民左衛門が創始した柔術流派。馬庭念流樋口十郎右衛門定伊の姓名も記されており、他流派門人同士の交流があったと考えられる。



楽神御々太	真神道流柔術
刀一振	上毛小幡藩 喜間多改
天保二辛卯年四月吉日	片山庄左衛門平信壽 (花押)

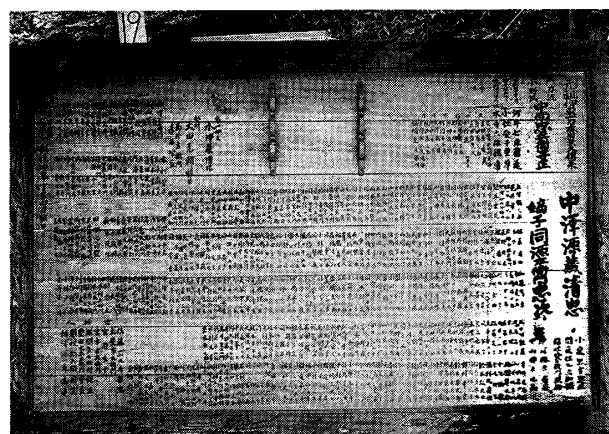
- 3) 弓術「^{へき}日置流^{ちくりん}竹林派」の奉納額（別表57）。弘化二年（1845），酒井数馬と門弟21名，催主5名によって奉納された。2月9日，安中城内の樹美堂において弓術百射掛けを行った記念に奉納されたものと考えられる。額には弓が掛けられていたと思われる。安中藩士・安中藩和田正次郎より曾根出羽守宛文書によれば3月12，13日に酒井数馬と門弟が持参したと記される⁷⁾。酒井数馬は安中藩士で馬庭念流目録。



奉 納	
弘化二年歳在乙巳二月九日於 安中城内射百的于樹美堂	日置流
	竹林派
	酒井数馬吉徳
	門弟 二一名
催主五名	

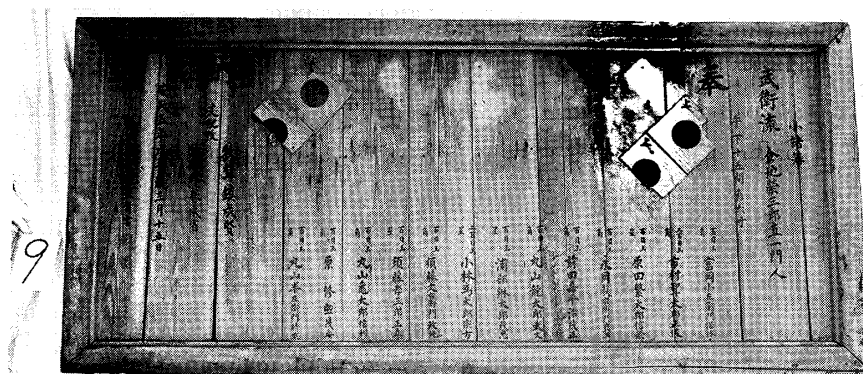
- 4) 一刀流「中澤源蔵清忠・清左衛門」による額。（弘化4（1847）年・別表58）

中西派一刀流の中澤源蔵^{なかざわげんぞう}（1797～1879）は群馬郡金古村出身。天保元年（1829）に江戸で小野派一刀流^{おのはいっとうりゅう}中西子正^{おのこうじ}に入門。「相伝本目録」を受けた。武者修行後の天保5年に故郷へ帰り，14年後の弘化4（1847）年50歳のときに記念に奉納したものか，上野国群馬郡付近の門人を中心に姓名が記される。こののち嘉永4年（1851）に信濃国松代藩剣術師範^{まつしろ}となり，嘉永5年には信濃国善光寺^{ぜんこうじ}に，嘉永7年には伊勢神宮にも額を奉納している。⁸⁾



弘化四年丁未四月朔日	元祖伊東一刀斎景久伝来
	一刀流小野派
	中西忠兵衛子正
	中澤源蔵清忠
嫡子源左衛門忠次	

5) 武衛流^{ぶゑ}。小諸藩倉地栄三郎^{こもろ}と門人13名による額（安政五年（1858）別表61）



納奉

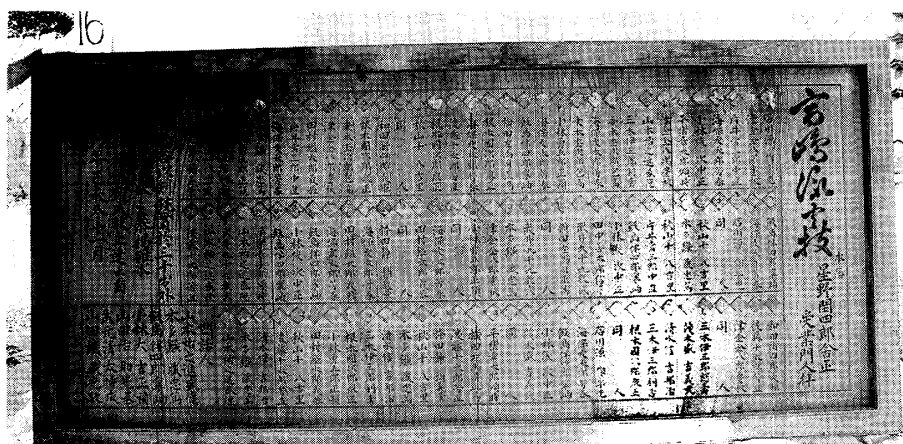
武衛流 小諸藩

倉地栄三郎直一門人

安政五年戊午歳三月十五日

武衛流^{ぶゑ}は、武衛市郎左衛門義樹（～1696）が創始した砲術、捕手、縄術。信濃国小諸藩士倉地栄三郎が奉納した。安中藩でも森本亘理が指導して文化8年（1811）に碓氷峠熊野神社に額を奉納¹⁰⁾した。群馬県沼田市戸鹿野八幡宮では、宝暦8年（1758）「武衛流四世東都青山之住人斎藤十郎太夫正房門人」による武術奉納額がある¹¹⁾。

6) 高島流火技（安政六年（1859）別表62）。江戸時代の砲術家高島秋帆によって創始された西洋式砲術。安中藩の星野閏四郎舎正の門人百名が剣銃をもって三十歩の距離から射抜いた的を掲げ、武技上達を祈願し奉納した額¹²⁾。



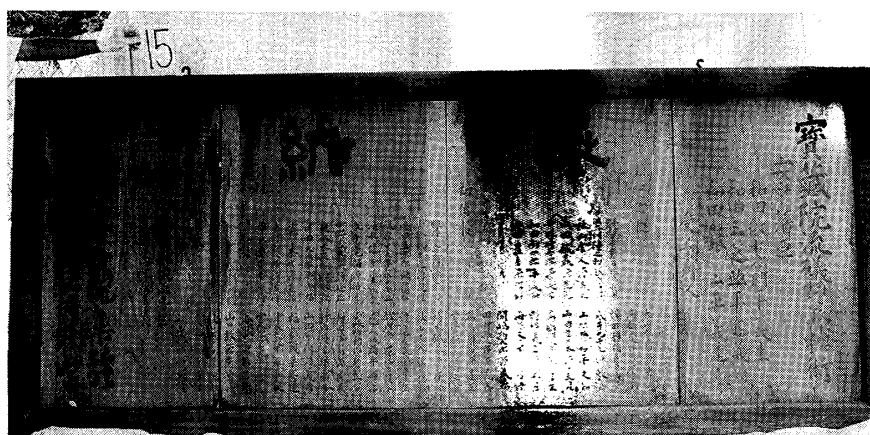
高島流火技

本藩 星野閏四郎舎正

受業門人拝

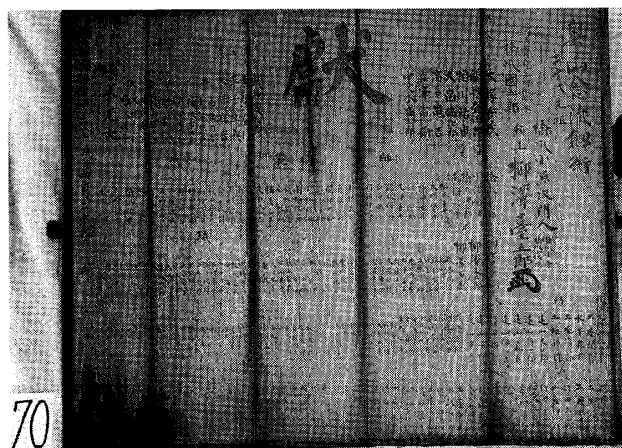
安政六年己未冬十一月

7) 宝蔵院磯野派槍術（慶応3年（1867）別表64）。安中藩士・和田紋右衛門平義生，和田三之助平近義，和田環三平義達らによる額。中伝授（7名），初伝授（12名），門人32名，免許目代（2名）が記される。宝蔵院流は奈良興福寺・宝蔵院院主，覚禅房法印胤栄^{いん}（1520～1607）が祖。二代胤舜弟子の磯野主馬信元（熊本藩）が磯野派を唱えた¹³⁾。



納 奉	
慶応三龍集於 単閼三月既望 (十六日)	宝蔵院磯野派槍術
	安中藩臣
	和田紋右衛門平義生
	和田三之助平近義
	和田環三平義達
	受業門人

- 8) 奥之山念流。(明治33年(1900)別表81) 奥之山念流は正平年間(1346～1370), 京の鞍馬山で慈恩が創始したとされる。剣術と柔術がある。武蔵国児玉郡三軒廓(埼玉県上里町七本木)で道場を開いた橋本小源次(1851～1913)門人による額。願主は児玉郡七本木村の柳澤臺五郎。¹⁴⁾



献	
明治三十三年庚子四月二十六日	奥之山念流剣術
	二十代元祖 橋爪小源次門人
	願主 柳澤臺五郎(花押)

つぎに、これらの額を熊野神社に奉納する際の費用や神社への事前許可について、馬庭念^{まにわねん}流^{りゅう}の例からみてみよう。

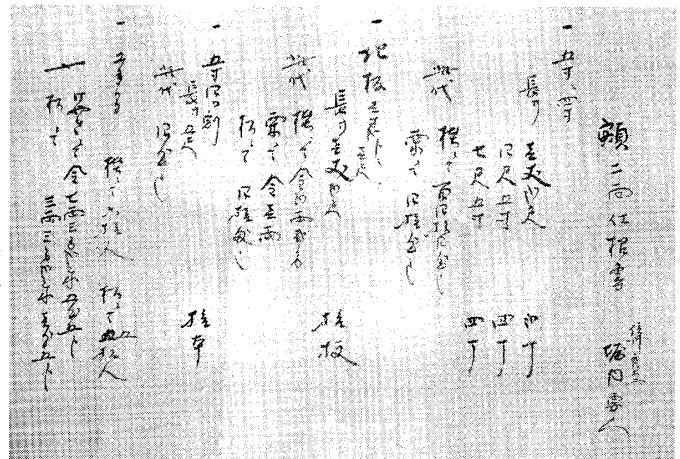
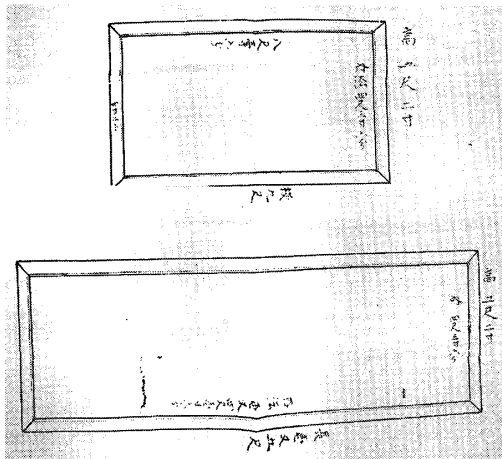
6. 碓氷峠熊野神社への額奉納の費用見積もりと奉納許可について

1) 費用見積もり

馬庭念流・樋口家文書によると、馬庭念流が熊野神社へ行った奉納額は、はじめ天明8年(1788)に馬庭念流剣術宗家・15世樋口十郎兵衛定暲が行った。そして58年後の弘化4年(1847)3月25日、ついに18世樋口十郎兵衛^{さだこれ}定伊、二十世樋口^{さだひろ}定廣(1839～1905)が再興を果たした。(寄付者1,005名)¹⁵⁾。このとき支払われた費用として、「額二面」で四両、「額面認め料、墨料」(金二百疋)、「小太刀 二本、長刀一本」(金二朱)，額面拭料(金二朱)，額修復料(金千疋)などが記録されている¹⁶⁾。

奉納額二面「高五尺二寸(2.11^尺)横九尺(2.72^尺)および長一丈五尺(4.54^尺)高五尺二寸(2.11^尺)」の作成にあたっては、「信州宮大工堀内要人」が次のような額2面の見積もりを作成した。¹⁷⁾

結局、材質は、檜・栗・杉のうち、一番堅固な「檜」を枠組みに使った。この結果、工事の手間として60人を要した。



額二面仕様書		信州宮大工 堀内要人
一 五寸二四寸		
長サ 壹丈貳尺	貳丁	
四尺五寸	四丁	
七尺五寸	四丁	
此代 檜ニテ百四拾四匁也		
栗ニテ 四拾匁也		
一 地板 壹寸貳分二毫尺	拾枚	
長サ 壹丈貳尺		
此代 檜ニテ金貳両貳分		
栗ニテ 金壹両		
松ニテ 四拾匁也	拾本	
一 工手間		
檜ニテ六拾人 松ニテ五拾人		
けやきニテ 金七両三分貳朱五匁五分		
松ニテ 三両三分貳朱 壹匁五分		

2) 安中藩士和田紋右衛門の事前交渉

奉額にあたって、前年にあたる弘化3年(1846)4月21日であろうか、馬庭念流念流目代で安中藩士和田紋右衛門が、碓氷峠熊野神社年番宮司曾根出羽宛に以下のような書簡を記した。

「為揃、^{いよいよ}愈々御安全珍重奉_レ存候。次に拙宅何も無事罷り在り候条、御安意下さる可く候。然は、先年馬庭村樋口氏より奉額これ有り候處、年来の事ゆえ、腐損候哉に相聞へ、殊に寄候得ば、再興の心掛けも^{これ}之有るべく、付ては今日、熊野宮へ同氏参詣致され、右額も一覽致し度旨、拙義へ相談もこれ有り、若し再興の示談等もこれ有り候へば、実談なし下され^{そうろうよう}候様、拙者よりも申し進めくれ^{そうろうむね}候旨、頼まれ候につき、此の段申し進め候、御山内御一統衆へも宜しく御打ち合わせの儀、偏に頼み入り候。

書外の儀は樋口氏より^{いついつ}逸々御承知下さるべく候。用事而^{のみ}已、早々此の如く御座候、
以上。

四月二十一日

和田紋右衛門
(樋口松枝家文書)¹⁸⁾

樋口十郎右衛門^{さだこれ}定伊自身が碓氷峠を登り、熊野神社へ来てみたところ、先祖が天明八年(一七八八)に奉納した額の腐食が激しい。これを見かねて、いよいよ額を再興したので、定伊は和田紋右衛門自身に取り持って進めて欲しいという。この定伊の要望を山内の神主衆に相談の上、是非承認願いたい。詳しい事は定伊氏と直接相談して欲しい、という主旨で、この書簡を神主曾根出羽へ差し出した。

ちなみに和田紋右衛門は、馬庭念流「目代」の実力で、安中藩馬庭念流一門の中心的存在であった上、安中藩主板倉勝明の「愛臣」であった。そして板倉勝明が『安中志』編纂に際して相談役であった神主曾根出羽(1811～1862)に橋渡しをする存在であった。¹⁹⁾

3) 安中藩への報告

碓氷峠熊野神社の社家は、信州分社家29軒、上州分社家30軒で形成されて(天明3年の記録)いたので、馬庭念流樋口定伊の要望について議論が交わされたと考えられる。

ところで熊野神社神主の馬庭念流入門者は、明和3年(1766)8月8日に「信州佐久郡碓氷峠 水澤亀之進」の入門以来、天明7年(1787)に熊野神社宮司曾根安太郎恒忠と曾根正親太夫藤原好晴が確認される²⁰⁾。1回目の奉納が行われていたことや、社家組頭の曾根出羽家へ出入りし懇意にしている安中藩士和田紋右衛門が馬庭念流門人であることもあってのことであろう、まもなく奉額の許可があり、新たな額が再び奉納された。

そして奉額後、安中藩への報告は以下のようなされた。

「以書付以御届申奉²¹⁾上候」

一天明八酉年當国馬庭住樋口十朗兵衛よりの奉額この度再興に付き、其の段恐れ乍ら、書き付けを以て御届申し奉り上げ候以上。

峠 熊野権現社家組頭

曾根出羽

佐藤出雲

弘化四未年三月

熊野神社宮司^{さとう いずも}佐藤出雲^{い お え}(五百枝ともいう、1815～1875)²²⁾、曾根出羽^{そね で わ}の連署^{あん}で安中藩^{なか}へ奉額執行の報告をし、一連の奉納額事業が締めくくられた。

7. まとめにかえて

- ① 今研究では、熊野神社に奉納された額95枚の大きさ、木材質を測定した。額の目的種別をみると、太々神楽額^{だいだい か ぐら}64枚(67.4%)、武術額8(8.4%)、算額2(2.1%)、俳句3(3.2%)、その他(18.9%)であった。
- ② 熊野神社への武術奉納額は、馬庭念流、気楽流、真神道流柔術、日置流竹林派(弓術)、一刀流中西派、武術流砲術、高嶋流火技、宝蔵院流磯野派槍術、奥之山念流など8流派に及んだ。武術流派の額は大型で、現存するもので最大6.62㎡であった。これは武技の上達祈願のほか、交通の要衝・熊野神社参詣者へ武術流派の勢力を示す意義があったと考えられる。
- ③ 馬庭念流の奉納額は、見積書によると二面のうち一面は4.54m×2.11mで面積は9.57㎡で、現存の額と比較しても最大であった。存在が確認できなかった理由として碓氷峠の気象条件における木材の腐蝕や風化によると考えられる。
- ④ 今回の調査は熊野神社(上州側)であった。熊野皇大神社(信州側)の奉納額については後日の課題である。

参考文献

- 1) 岩井宏美『絵馬』(ものと人間の文化史 12) 法政大学出版局, 1974
- 2) 水沢邦彦『碓氷峠』長野県北佐久郡軽井沢町峠 滋野屋発行 1986 および小林収『碓氷峠の歴史物語』(株) 樺 1998
- 3) 群馬県立博物館『群馬県立博物館研究報告第 11 集 群馬の絵馬』1976
- 4) 『安中市史』第五卷(近世資料編) 資料 86「高島流火技」によると「星野閏四郎舎正 受業門人」として石川源作倅光ほかの氏名が記され「右百の各剣銃貫於三十歩外, 順其甲乙而拳之恭謁碓氷熊野神祠, 伏祈武技上達云爾。安政六年己未冬十一月」とある。
- 5) 群馬県剣道連盟『群馬県剣道史』上毛新聞社 1998 p615 参考
- 6) 9) 13) 綿谷雪他『武芸流派大辞典』東京コピー出版部 1978
- 7) 曾根克己家所蔵文書・『安中市史』第五卷(近世資料編) 資料 88, 2002
- 8) 下島準一『上毛剣道史』1968 参考
- 10) 『安中市史』第二卷(通史編), 2002
- 11) 群馬県立歴史博物館『絵馬ーそのすがたと信仰』図録 1983
- 12) 『安中市史』第五卷(近世資料編) 2002
- 14) 山本邦夫『埼玉県剣客列伝』遊戯社 1981 年参考
- 15) 樋口家文書『従明和三年門弟入帳』および『従天明五巳年門弟帳』
- 16) 樋口家文書『碓氷嶺奉納入用帳』弘化四年(1847)
- 17) 18) 樋口松枝家文書
- 19) 本田夏彦「碓氷峠と甘雨亭公」『みやま文庫第三六号』1970 所収および本田夏彦「甘雨亭公と曾根出羽」『碓西新聞』(昭和二九年十一月十七日) 第六号記事による。
- 20) 樋口家文書
- 21) 曾根アキ家文書 「書付以御届申奉^{せき}上候」群馬県立文書館。曾根出羽ははじめ勢^{せき}亀。のち忠^{ただあきら}瑩。文化八(1811) 生まれ。文化十三年(1816) 出羽亮を号す。安政三年(1856) 信濃亮に改名。文久二(1862) 没。
- 22) 佐藤主馬は文化 14(1817) 生まれ。年番神主。安政三(1856) 没。(長野県北佐久郡軽井沢町峠町佐藤瑞枝氏による)

謝辞

今研究は、熊野神社宮司曾根恒季氏に調査協力をいただいた。また、堂宮大工・大森健司氏による作業指導を受けながら文化財としての奉納額を扱うことが出来た。また重量のある文化財の移動など作業協力をしていただいた工学院大学剣道部 5 名(高岡直人・桑村和憲・中山修一・薄木淳也・米澤健一), 表作成のご協力をいただいた木島玉貴氏の各氏に深謝します。

また筑波大学名誉教授渡邊一郎先生には翻刻のご指導をいただきました。重ねて御礼申し上げます。

(かずま こうじ 本学助教授)

〈碓氷峠・熊野神社の奉納額〉

通し 番号	表題	年代	西暦	幅 (mm)	長さ (mm)	面積 (m ²)	厚さ (mm)	中材質	枠材質	筆頭者 (および人数)	その他の記名	備考	収納場所	撮影 番号
1	大々御神樂	享保 10	1725	590	970	0.57	90	ケヤキ		西上州群馬郡大久保村講中			収蔵倉庫	50
2	太々御神樂 諸願成就之所	元文 2	1737	525	960	0.50	120			上野国群馬郡湯中子村			収蔵倉庫	68
3	奉納太々御神樂	寛保 2	1742	980	540	0.53	65	桐		上野国群馬郡権田粧屋講中			収蔵倉庫	52
4	太々御神樂	寛保 3	1743	1090	630	0.69				上野国碓氷郡岩氷村講中 敬白			隨身門	73
5	大々御神樂	寛保 4	1744	860	530	0.46	100	桐	ケヤキ	信州佐久郡大日向邑講中			収蔵倉庫	61
6	太々御神樂	延享 2	1745	490	945	0.46	5	ケヤキ		講中敬拝			収蔵倉庫	44
7	奉納大々御 神樂	延享 4	1747	745	295	0.22	20	ケヤキ		西上州碓氷郡土塩村講中			収蔵倉庫	40
8	太々御神樂	寛延 2	1749	1160	1545	1.79	150	ケヤキ	栗	上野国群馬郡大久保村取立所	講中		収蔵倉庫	12
9	奉奏太々御神樂	宝暦 3	1753	700	370	0.26	15	ケヤキ		野上州勢多郡南雲村講中			収蔵倉庫	67
10	大々御神樂	宝暦 7	1757	1010	460	0.46	15	桐		上野国群馬郡有間村講中			収蔵倉庫	45
11	奉奏太々御神樂	宝暦 7	1757	955	580	0.55	130	ケヤキ		上野国群馬郡下城邑講中			収蔵倉庫	48
12	奉納額	宝暦 8	1758	880	465	0.41	30	桐		上野国群馬郡矢嶋淡川村講中			収蔵倉庫	42
13	奉納額	宝暦 9	1759	615	1000	0.62	110	ヒノキ		上野国群馬郡半田村 講中			神楽殿	806
14	奉奏太々御神樂	宝暦 11	1761	810	365	0.30	10	ケヤキ		上州吾妻郡大前惣村中			収蔵倉庫	46
15	太々御神樂	宝暦 13	1763	540	930	0.50	100	桐		信州小縣郡塩田村講中 鈴子村八人 町屋村 9 人、 奈良尾村 9 人、平井寺村 1 人 取立所小野八左衛門富重			神楽殿	801
16	太々御神樂	宝暦 14	1764	1050	1820	1.91	120	桐		上州勢多郡津久田講中			収蔵倉庫	6

通し 番号	表題	年代	西暦	幅 (mm)	長さ (mm)	面積 (㎡)	厚さ (mm)	中材質	枠材質	筆頭者（および人数）	その他の記名	備考	収納場所	撮影 番号
17	大々御神樂	宝暦 14	1764	710	410	0.29	90	ケヤキ		上州群馬郡陳場講中 39 人			収蔵倉庫	54
18	大々御神樂	明和 2	1765	725	420	0.30	70	桐		上野国緑野郡中嶋村講中 16 人			収蔵倉庫	55
19	奉納額	明和 6	1769	720	1040	0.75	100	ケヤキ		上野国群馬郡萩原邑 願主小林与市ほか 30 人 世話人 2 人			神楽殿	807
20	太々御神樂	安永 4	1774	555	960	0.53		松	不明 (色つき)	上州勢多郡 講中			隨身門	75
21	太々御神樂 額	安永 5	1775	760	1263	0.96	138	ヒノキ		上州宮崎村講中			収蔵倉庫	5
22	奉納太々御神樂	安永 6	1777	900	550	0.50	80	桐		溝呂木村講中			収蔵倉庫	58
23	太々御神樂 額	安永 7	1778	1000	575	0.58		ケヤキ		上毛妻本宿村講中			神楽殿	804
24	奉納額	安永 7	1778	730	500	0.37	90	ケヤキ		上州碓氷郡五料村講中			神楽殿	808
25		安永 7	1778							信州佐久郡岩村田講中			神楽殿 番号無し	
26	太々御神樂	安永 9	1780	620	1010	0.63			ケヤキ	上州甘楽郡田篠邸講中			隨身門	74
27	奉納太々御神樂	安永 10	1781	860	595	0.51	50	ケヤキ		上州吾妻郡 萩生講中			神楽殿	803
28	太々御神樂	天明 5	1785	840	440	0.37	30	桐		上州勢多郡八崎村講中	講元狩野傳右衛門 世話型猪川丹右衛門		収蔵倉庫	41
29	太々御神樂	天明 5	1785	705	1040	0.73	110	ケヤキ		信州佐久郡村々講中 高瀬伝右衛門ほか 50 人 世話人 6 人			収蔵倉庫	57
30	太々御神樂 額	寛政 3	1791	900	570	0.51	106	ケヤキ		當国群馬郡南下邑講中			収蔵倉庫	2
31	太々御神樂	寛政辛亥	1791	690	360	0.25	25	ケヤキ		上州碓氷郡下後閑村講中			収蔵倉庫	62
32	太々御神樂	寛政 4	1792	510	990	0.50		ケヤキ		上野国群馬郡総社 山王邑講中			隨身門	71

通し 番号	表題	年代	西暦	幅 (mm)	長さ (mm)	面積 (㎡)	厚さ (mm)	中材質	枠材質	筆頭者 (および人数)	その他の記名	備考	収納場所	撮影 番号
33	大々御神楽	寛政 4	1792	1012	520	0.53	50	ケヤキ	ケヤキ	上野国群馬郡総社 山王邑講中			神楽殿	802
34	太々御神楽	寛政 8	1796	1030	1810	1.86	65	ヒノキ	ヒノキ	五ヶ年講満願			収蔵倉庫	27
35	太々御神楽	寛政 8	1796	520	920	0.48		ケヤキ		上州群馬郡上白井村講中			隨身門	72
36	太々御神楽	寛政 10	1798	580	920	0.53	90	ケヤキ		上毛甘楽郡南牧風口村 大桑原村講中			収蔵倉庫	49
37	太々御神楽 額	享和 3	1803	664.5	414	0.28	88	ケヤキ		上野国群馬郡俣馬講中			収蔵倉庫	1
38	太々御神楽	文化 3	1806	940	1645	1.55	160	ケヤキ		信州_種連商人講中			収蔵倉庫	39
39	奉納額	文化 5	1808	1085	1950	2.12	165	ケヤキ		緑埜郡藤岡講中			収蔵倉庫	33
40	太々御神楽	文化 5	1808	1660	605	1.00	50	桐		中山道倉賀野駅講中			収蔵倉庫	43
41	奉納 大々御神楽	文化 7	1810	1210	755	0.91	110	ケヤキ		當國碓氷郡安中谷津町講中			収蔵倉庫	4
42	太々御神楽	文化 8	1811	1060	640	0.68	165	ケヤキ		當國群馬郡上白井講中	藤賢和敬書印		収蔵倉庫	10
43	大々神楽涂上 (朱色黒)	文化 12	1815	1140	1945	2.22	115	ヒノキ	ケヤキ	當國碓氷郡安中上町	長野惣三郎ほか17名 世話人 柳澤吉三郎・ 久保田惣兵衛・ 鈴木浅吉	馬庭念流 関係者あり	収蔵倉庫	7
44	奉奏大御神楽	文化 12	1815	1290	2030	2.62	60	桐	ヒノキ	上毛州碓氷郡中宿村			収蔵倉庫	36
45	太々御神楽	文化 12	1815	1490	950	1.42	50	ケヤキ		上州伊勢崎 講中			隨身門	79
46	太々御神楽	文政 2	1819	850	455	0.39	75	ケヤキ		當國佐井郡下植木村講中			収蔵倉庫	56
47	奉納太々御神楽	文政 4	1821	1105	735	0.81	140	ヒノキ		上野国群馬郡矢嶋村 反町蔵人ほか14人			収蔵倉庫	47
48	太々御神楽	文政 8	1825	795	440	0.35	80	ケヤキ		上州勢多郡棚下村講中			収蔵倉庫	53

通し 番号	表題	年代	西暦	幅 (mm)	長さ (mm)	面積 (㎡)	厚さ (mm)	中材質	枠材質	筆頭者 (および人数)	その他の記名	備考	収納場所	撮影 番号
49	奉献	文政 9	1826	2130	2710	5.77	90	杉	ヒノキ	気楽流戸田越後守十一代傳來 飯塚臥龍斎源兼義	飯塚傳左衛門ほか多数		収蔵倉庫	21
50	太々御神樂	文政 12	1829	670	1720	1.15	100	ケヤキ	杉	中山道本庄駅台町講中			収蔵倉庫	38
51	奉納額	文政 13	1830	700	452	0.32	60	ケヤキ	ヒノキ	上野国碓氷郡川浦講中			神楽殿	809
52	太々御神額 刀一振	天保 2	1831	1810	2720	4.92	130	杉		真神道流柔術上毛小幡藩中 片山庄左衛門	樋口十郎右衛門・ 高崎藩中・小幡藩中・ 一宮図書・小幡大内蔵・ 他多数		収蔵倉庫	18
53	太々御神樂	天保 7	1836	450	760	0.34	100	ケヤキ		上州群馬郡池端村 願主関口勘右衛門 万人講連中			神楽殿	80
54	歌川義輝 武者絵	天保 11	1840	912	1210	1.10	60	桐	桐	奉納 當国安中宿 柳澤庄七 柳澤次郎吉			神楽殿	805
55	太々御神樂	弘化 2	1845	1185	1750	2.07	220	ケヤキ		當國碓氷郡中宿	講元 大河原大八郎 田中辰五郎ほか 15 名		収蔵倉庫	11
56	奉納 日置流 酒井数馬吉徳 門弟廿一名 催主六名	弘化 2	1845	2070	3200	6.62	70	桐	ケヤキ	安中城内射的于樹齋堂	催主名・酒井辨四郎・ 小林達三郎・星野萬平・ 岡本善三郎・和田正次郎・ 根岸円蔵		収蔵倉庫	17
57	刀掛二振	弘化 4	1847	1860	2855	5.31	150	杉		元祖伊東一刀斎景久傳來 一刀流小野派中西忠兵衛 中澤源蔵清忠 嫡子同源左衛門忠次	津軽越中守内河井七郎 松平陸奥守内小松愛子 牧野河内守内木寺六碓 外多数		収蔵倉庫	19
58	御寶前一錢職	弘化 4	1847	1780	3040	5.41	120	杉	ヒノキ	上州群馬郡渋川宿連中 安中連中 板島連中 藤岡連中 當國佐久郡連中	曾主武蔵屋梅五郎 上州小野産 信州軽井沢住 願主大坂屋兼吉		収蔵倉庫	20
59	算額	安政四年	1857			0.00							神楽殿	番号無し

通し 番号	表題	年代	西暦	幅 (mm)	長さ (mm)	面積 (㎡)	厚さ (mm)	中材質	枠材質	筆頭者 (および人数)	その他の記名	備考	収蔵場所	撮影 番号
60	奉納百目玉 角星の的	安政 5	1858	1110	2475	2.75	75	ヒノキ		小諸藩 武衛流倉地栄三郎直一門人 13名	支配改 牧野鎮成賢 牧野外巻成省		収蔵倉庫	9
61	高嶋流火技 本藩 星野閏四郎 受業門人	安政 6	1859	1448	3170	4.59	129	杉	ヒノキ	右百の各以創銃母見於 三十歩ほか上 34名・中 34名・ 下 32名 (安中藩)	世話人 山本祐之進・ 小林大吉・山田鐵藏・ 本多鐵藏・山田治助・ 武之清太		収蔵倉庫	16
62	太々御神樂	文久 2	1862	960	1830	1.76	75	ケヤキ		當國碓氷郡中宿邑講中	松本浅吉・ほか 18名 世話人須藤政右衛門 武田茂太郎・ 講元松本好之郎 野勝五郎		収蔵倉庫	37
63	奉納 寶藏院流 磯野派槍術	慶応 3	1867	1360	3313	4.51	90	ケヤキ	ヒノキ	安中藩臣 和田数右衛門中傳 7名・ 和田三之助初傳 12名・和田鑑三平	免許目代・渡邊威藏・ 和久澤文四郎		収蔵倉庫	15
64	額 俳句	明治 5	1872	980	2420	2.37	70	ケヤキ	ヒノキ				収蔵倉庫	14
65	関流 算額	明治 5	1872	2180	578	1.26	20	ケヤキ		関流七傳巖井遠重授業 男巖井雅重門人自問自答・ 坂本駅 金井尚七郎ほか 伊香保村小暮篤太郎			神楽殿	8071
66	奉納 (七福神 絵図)	明治 7	1874	825	1675	1.38	70	ヒノキ	ヒノキ	當國甘楽郡宮崎 鈴木久平			収蔵倉庫	26
67	奉奏 太々御神樂 額	明治 14	1881	960	1820	1.75	60	杉	ヒノキ	上野国吾妻郡長野原村			収蔵倉庫	13
68	太々御神樂	明治 14	1881	1470	2535	3.73	75	ヒノキ	ヒノキ	上野國北甘楽郡大日向村・警戸郎 榎沢村 六車村・大塩沢村・ 大仁田村 小澤村 講中	大日向村連名 訓導 神道修正派 204名 (茂木平蔵 畠山仁平 市川和兵衛)		収蔵倉庫	28

通し 番号	表題	年代	西暦	幅 (mm)	長さ (mm)	面積 (㎡)	厚さ (mm)	中材質	枠材質	筆頭者 (および人数)	その他の記名	備考	収納場所	撮影 番号
69	俳句額	明治16	1883	802	1806	1.45	37	桐	ヒノキ	奉納連発光河久保蘭屋書者 楓山九夏			収蔵倉庫	31
70	奉納 大々御 神楽	明治22	1889	1110	2120	2.35	90	ケヤキ		新潟県越後国頸城郡 春日新田村住人 于時上野国碓井中尾山伐木人 宮原組 願主 松矢梅三郎	ほか職工連中		収蔵倉庫	8
71	発句合	明治23	1890	710	2800	1.99	45			催主 大講義 曾根秋津			収蔵倉庫	30
72	奉奏 太々御 神楽 額	明治23	1890	925	1790	1.66	50	松	松	群馬県西群馬郡佐野村大字 下中居	武運長久		収蔵倉庫	32
73	俳句額	明治23	1890	695	2855	1.98	45	桐	梅	催主 大講義 曾根秋津			収蔵倉庫	34
74	奉奏 太々御 神楽 額	明治25	1892	1750	900	1.58	75	ヒノキ	ケヤキ	群馬県上野国北甘楽郡秋畑村 37人 国峰村10人 別保村2人 妙義町5人 ほか			収蔵倉庫	3
75	奉奏太々御神楽	明治25	1892	1250	600	0.75	40	ケヤキ		群馬県上野国北甘楽郡秋畑村 37名	小幡大字国峯10名・ 安中町高別当1名・ 黒岩村大字別保2名・ 岩平村大字奥平2名・ 妙義町5名・ 西群馬郡新高尾村大字 新保田中村4名 当主坂西千尋		宮宅	8038
76	奉納額	明治辛卯	1892	230	480	0.11	30	ケヤキ		明治辛卯年生 男			収蔵倉庫	65
77	奉太御神楽	明治26	1893	1900	1240	2.36	60	ヒノキ		上野国碓氷郡敬信者 隨身門右 熊野皇太神			隨身門	77
78	奉太御神楽	明治26	1893	1920	1240	2.38	60	ヒノキ		上野国碓氷郡敬信者 隨身門左 熊野皇太神			隨身門	78

通し 番号	表題	年代	西暦	幅 (mm)	長さ (mm)	面積 (㎡)	厚さ (mm)	中材質	枠材質	筆頭者 (および人数)	その他の記名	備考	収納場所	撮影 番号
79	奉奏 太々御神樂 額	明治 30	1897	900	1815	1.63	60	杉	杉	上野国吾妻郡嬬恋村大字今井村			収蔵倉庫	22
80	奥ノ山念流剣術 額	明治 33	1900	1310	1630	2.14	50	ヒノキ		二十代元祖橋爪小源治門人 柳澤臺五郎 (花押)			収蔵倉庫	70
81	奉納太々御神樂	明治 35	1902	915	1815	1.66	250	杉		上毛北甘楽郡下仁田町字 下栗山講中	金井直次郎 講元金井國吉 ほか13名 発起世話人 金井清十郎		収蔵倉庫	35
82	征露記念奉願	明治 39	1906	1080	1760	1.90	60	ヒノキ	ヒノキ	上野国群馬郡倉田村碓氷郡 鳥羽村有志者	倉田村・塚越源太郎 鳥羽村・佐藤主馬造 陸軍士兵軍曹ほか50名 陸軍歩兵ほか27名		収蔵倉庫	24
83	歌刻	明治 39	1906	385	530	0.20	15			願主 菊池弥一郎、中島新太郎、 中島五平、猿谷八男作			収蔵倉庫	60
84	奉納縣社皇大神社 御神祭御田? 神樂用節午一鼓	明治 42	1909	1055	240	0.25	30	ケヤキ		山梨縣北巨摩郡小泉村在郷 軍人一同			収蔵倉庫	63
85	奉納 熊野皇神社	明治 42	1909	365	515	0.19	20	ヒノキ		群馬県北甘楽郡小幡村大字 善慶寺村 黒澤休藏			収蔵倉庫	64
86	奉奏大大御神樂	明治 43	1910	1090	1820	1.98	40	松	松	群馬郡吾妻郡岩島村大字 三島村講中	結装主任社掌曾根秋津印 細工人中山春吉 高橋又一郎外96名		収蔵倉庫	23
87	太々御神樂	明治 43	1910	1020	1820	1.86	65	ヒノキ	ヒノキ	上野国吾妻郡岩島村大字松谷村 長野原町大字川原畑村講中	川原畑講元・ 世話人水出辨藏 松谷講元・ 世話人外51名		収蔵倉庫	25

通し 番号	表題	年代	西暦	幅 (mm)	長さ (mm)	面積 (㎡)	厚さ (mm)	中材質	枠材質	筆頭者 (および人数)	その他の記名	備考	収納場所	撮影 番号
88	熊野皇大神社	昭和 2	1927	900	1810	1.63	60					破損 甚だし	収蔵倉庫	29
89	奉納随垣御門	昭和 8	1933	240	910	0.22	20			金婚式記念 神職 曾根賢輔	妻てる		収蔵倉庫	69
90	絵 (朱)	不明		1370	1040	1.42	50	杉					収蔵倉庫	51
91	絵 額	宝暦		585	1060	0.62	50	ケヤキ		曾根の文字が絵の中に見える。			収蔵倉庫	59
92		不明		910	220	0.20	10	ケヤキ					収蔵倉庫	66
93	太々御神楽			1170	753	0.88		ケヤキ		當国甘楽郡宮崎講中 長野業善拝書			隨身門	76
94		不明		717	420	0.30	60	青銅					神楽殿	8072